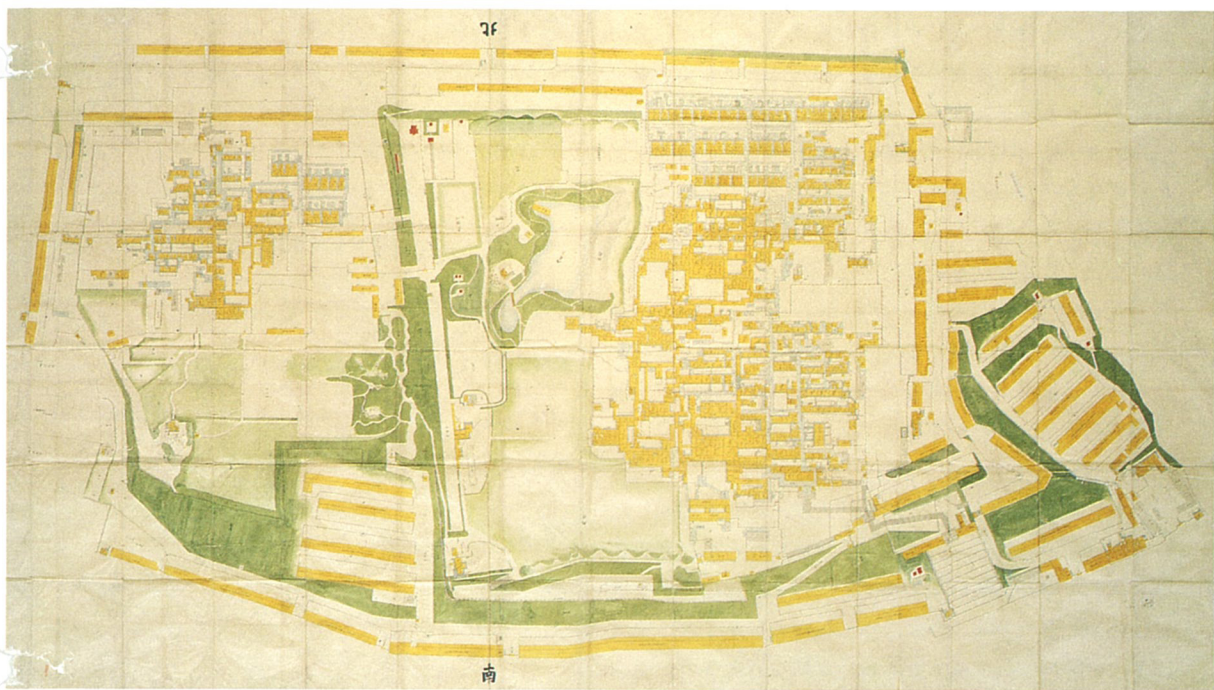


蓬左

HÔSA No.44

名古屋市蓬左文庫
Nagoyashi Hôsabunko

1991. 1



市谷御屋敷之図 文政8年(1825)作成 223×425cm

江戸市谷(現在の新宿区市谷本村町)尾張藩上屋敷の江戸後期の様子を描いた図。敷地内の建物、部屋割りなど、精細に記されている。

市谷屋敷の総坪数は約78000坪(257400㎡、現在では、陸上自衛隊市谷駐屯地の全域、大蔵省、警視庁、厚生省などの敷地が占める。)。江戸における尾張藩の政治、外交の中枢と、藩主とその家族および使用人の生活の場が集中し、さらに、江戸勤藩士の居住区をも含むなど、そこで働き、生活する人々の数は、悠に千人を越えていたものと推定される。

尾張藩の江戸屋敷は、このほか趣向を凝らした広大な庭園で知られ、藩主の休息や、將軍、大名の接待の場であった戸山(新宿区戸山)の下屋敷をはじめ麴町(千代田区紀尾井町)の中屋敷、築地(中央区築地)の御蔵屋敷などがあった。

この図は、御右筆部屋内にあった御日記所(御記録所)の所蔵と伝えられる。図中邸内の中ほどに御右筆部屋、元御記録所などの記述がある。

蓬左文庫の蔵書の主要部分を占める尾張徳川家旧蔵書の中には、尾張藩御日記所（文政9年5月までは御記録所）の蔵書であったことを示す蔵書印の捺された書物が数多く含まれています。

御日記所とは、藩主とその一族にかかわる記録の編纂を行った役所で、名古屋城内と江戸市谷の上屋敷内の二ヶ所にありました。主な編纂物は、藩主一族の公務を中心に記述された藩の正史「御日記」（「事蹟録」「御記録」と、系図であるとともに各入の精細な履歴録でもある「御系譜」（「御統帳」とも言う。血縁、縁戚関係にある諸家の系譜を合せて編纂された。宝暦期のものは41家2寺分があったが、寛政期以降は將軍家と御三家のみとなった。）で、幕府の命によって提出した「系譜」の編纂も御日記所が行っていました。御日記所の旧蔵書は、こうした編纂の資料として集められたものであり、資料の収集、筆写も御日記所の重要な職務の一つでした。

「御日記」や「御系譜」編纂のはじまりは、初代藩主義直による父家康の事蹟録「御年譜」、徳川家の系図「御系図」にまで遡ることができますが、尾張徳川家歴代の記録編纂が藩政上いつから、どのように始められたかは明らかではありません。ただ、古いところでは、元禄11年(1698)、町方の儒者小出桐齋(1666～1738)が「御記録」手伝として扶持を受け、同13年には財政難から「御記録」が中止となった事実が知られています。

現在残されている編纂物によるならば、尾張藩が正史編纂事業に本格的に着手したのは、宝暦2年(1752)頃からと見られます。宝暦2年から13年にかけて、「事蹟録」の名で慶長5年～元禄13年(1600～1700)分が、寛政2年(1790)から9年にかけて「御記録」の名で元禄14年～寛政8年(1701～96)分が編纂されました。つづいて編纂された寛政9年以降の分は、「御日記」と名付けられましたが、享和3年(1803)までで中断してしまい、その一方で、文政9年(1826)から嘉永2年(1829)頃にかけて、項目を整理して、記述を簡略化した「御日記頭書」（慶長5年～嘉永2年までを収録）が編纂されています。「御系譜」についても、藩の事業としての着手は、宝暦頃と見られ、以後幕末まで継続して編纂されていますが、「御日記」とは逆に時代が下るほど記事が詳細となっています。

一方、御日記所（御記録所）が実際に業務を開始したのは、「御系譜御記録調」として大規模に行われた寛政2年～9年の編纂事業からと言えます。右筆部屋の中に置かれた御記録所では、のべにして担当の右筆5名、手伝12名、中間16名、紙継中間4名、文章校訂者3名が従事し、専用の蔵書の収集が始まったのもこのころからと考えられます。寛政9年以降は、専任は留書奉行（頭）1名、書役数名に縮小されますが、業務の中止、役所の縮小を経ながらも、幕末まで編纂事業と資料の収集を継続しています。

現在残されている御日記所の蔵書は、主として歴代藩主の伝記、尾張および尾張藩についての古記録、諸家の系譜集、歴史一般などの書物が多く、さらには、城下図屋敷図、古城図、合戦図、国絵図など二千枚におよぶ御日記所旧蔵と伝えられる多様な古絵図群もあります。

これらの蔵書は、明治維新の際には、他の役所の蔵書と同様に、いったん県に提出されましたがまもなく返却され、明治7年(1874)に政府に提出した「系譜」と「事蹟録」編纂の際にも資料として利用されています。

御日記所関係年表

年 号	事 柄
元禄11(1698)	9. 小出桐齋、御記録御用手伝
13(1700)	3. 御記録止む
宝暦2(1752)	9. 事蹟録の編纂はじまる。
13	10. 事蹟録(慶長5～元禄13年分)完成。 このころ、血縁、縁戚関係にある諸家の系譜も含む「御統帳」(御系譜)できる。
寛政2(1720)	3. 幕府、大名、幕臣に対し系譜提出を指示。 「御記録」「系譜(幕府提出分)」編纂および、「御系譜」の改編はじまる。
同 4	幕府へ「系譜」提出。
同 9	7. 御記録所、右筆部屋へ移る。 訂正、加筆の上幕府へ「系譜」再提出。 「御記録」(元禄14～寛政8年分)完成
文化3(1806)	このころまでに、「御系譜」(慶長5～天明2年分)できる。 2. 御記録所懸留書奉行をはじめて任命。 5. 御記録所の業務停止 このころまでに、「御記録」(寛政9～文化3年分)下書できる。
文政元(1818)	5. 御記録所業務再開
同 9(1826)	5. 「御記録」、「御日記」となり、御日記所となる
文政9～?	「御日記」(寛政9～享和3年分)完成
天保4(1833)	正. 御日記所留書頭をはじめて任命
同 5	11. 「御日記頭書」(慶長5～文政10年分)完成
同 15	江戸御日記所業務停止
弘化4(1847)	幕府へ「系譜」提出 このころまでに「御系譜」(天明3～天保15年分)できる。
嘉永2(1849)頃	「御日記頭書」(文政11～嘉永2年)完成
安政2(1855)	2. 御日記所留書頭、御日記懸留書頭並となる。
文久元(1861)	6. 御日記所引払い。
元治元(1864)	幕府へ「系譜」提出。 このころまでに「御系譜」(天保15～安政7年分)できる。
明治4(1871)	御日記所旧蔵書県へ提出、まもなく返却。
～同7(1874)	尾張徳川家明治政府の命により「尾張名古屋徳川家譜」「徳川義直初代々の事蹟」を編纂

「尾張藩御日記所とその蔵書」出品目録

—編纂物—

1. 御日記頭書	9 冊
江戸末期写	
2. 御初代之記草稿	4 冊
江戸中期写	
3. 系譜（義直～宗睦）	2 冊
寛政年間写	
4. 系譜（義直～慶藏）	1 冊
弘化4年写	
5. 系譜（義直～茂徳）	1 冊
元治元年写	
6. 公義御系譜（家康～家慶）	3 冊
寛政～天保年間写	
7. 御系譜（義直～慶恕）	1 冊
江戸末期写	
8. 四谷御家并大久保川田久保御家系譜	1 冊
同	
9. 紀州家系譜（頼宣～斉順）	1 冊
寛政～天保年間写	
10. 水戸家系譜（頼房～斉昭）	1 冊
寛政～天保年間写	
11. 御略系	4 冊
江戸後期写	
12. 系譜（義直～義礼）	1 冊
明治6～13年写	
13. 事蹟録（義直～義宜）	1 冊
明治6年写	
14. 文政元年寅五月ヨリ御記録自筆留	1 冊
文政元～4年写	
15. 御系譜御事蹟編纂取調帳	1 冊
明治6～8年写	

16. 公儀御統帳（三卿方共）	1 冊
江戸末期写	
17. 尾張家譜 卷一	1 冊
磯谷正卿編 江戸後期写（自筆）	
18. 公義江御指出御系譜調下	1 冊
弘化4年写	

—尾張藩主各伝—

19. 敬公御徳義・御行状・御宝訓	1 冊
江戸後期写	
20. 敬公実録	9 卷 9 冊
江戸後期写	
21. 敬公遺事	1 冊
田宮翼 江戸末期写	
22. 尾城始君知	1 冊
江戸後期写	
23. 寛永覚書	1 冊
同	
24. 統岩測	2 卷 1 冊
同	
25. 泰心院源誠公御行状	1 冊
同	
26. 源誠公御嘉言善行	1 冊
同	
27. 真藏公御年譜・戴公紀念録	1 冊
同	
28. 戴公紀念録	1 冊
同	
29. 孝世子伝・同年譜・同付記	1 冊
同	
30. 昔咄	2 冊
江戸後期写	

御日記所旧蔵書に見られる蔵書印（原寸）



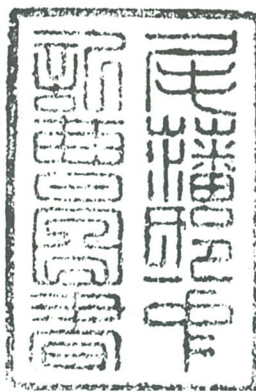
「御記録御用懸」



「尾藩御記録所図書記」



「御記録所図書之記」



「尾藩邸中記曹図書」



「御日記所」



「御日記懸」

31. 趣庭雑話	1 冊
江戸後期写	
—家康伝—	
32. 御年譜	1 冊
徳川義直 江戸末期写	
33. 御年譜付尾	11 冊
江戸末期写	
34. 権現様一代記	1 冊
江戸後期写	
35. 神君御手簡	1 冊
同	
36. 神君御文	1 冊
同	
—尾張史—	
37. 蓬左城編年大略 卷下	1 冊
寛政 5 年写	
38. 尾陽雑記	4 冊
江戸後期写	
39. 紅葉集	2 冊
江戸末期写	
40. 柿の落葉	1 冊
同	
41. 蓬左遷府記稿	1 冊
加藤品房著 江戸末期写	
42. 蓬州旧勝録	2 冊
嘉永 6 年写	
43. 小笠原長昌覚書	1 冊
江戸中期写	
44. 小笠原長昌日記	5 冊
寛文元～6 年写	
45. 世禄持高屋敷所付	2 冊
江戸末期写	
46. 寛永年中分限帳	1 冊
江戸後期写	
47. 大御番初纏羽織模様	1 冊
同	
48. 尾州寺社便覧	3 巻 3 冊
同	
—諸系譜—	
49. 寛永諸家系図伝	186 冊
林道春等編 江戸後期写	
50. 古今武家大系図	41 冊
江戸末期写	
51. 藩翰譜統編	12 巻 21 冊
瀬名源五郎等編 江戸末期写	
52. 寛政家譜目録	6 冊
江戸末期写	
53. 幕府祚胤伝	4 冊
竹尾次春 江戸末期写	
54. 万世家譜	5 巻 5 冊
川口信友編 江戸末期写	
55. 将軍家譜	7 冊
林道春 寛永 4 年刊	

—蔵書目録—	
56. 御文庫御書物目録 (寛政)	3 冊
江戸後期写	
57. 御文庫御書物便覧	4 冊
小沢鎮盈編 江戸後期写	
58. 明倫堂御蔵書目	1 冊
江戸後期写	
59. 明倫堂蔵書目	1 冊
江戸末期写	
60. 文庫書目 (文化13年)	2 冊
江戸後期写	
61. 松平君山蔵書目録	1 冊
江戸末期写	

—史書、その他—	
62. 古史通或門	2 冊
新井君美 江戸末期写	
63. 日記摘要	3 冊
江戸末期写	
64. 読史余論	5 冊
新井君美 江戸末期写	
65. 中興武家盛衰記	30 冊
江戸期写	
66. 駿府政事録	8 巻 8 冊
江戸後期写	
67. 創業録 (有欠)	4 冊
同	
68. 元寛日記	6 巻 10 冊
江戸末期写	
69. 当代記	10 冊
江戸期写	
70. 大坂両御陣覚書	2 冊
江戸後期写	
71. 玉露叢	42 巻 21 冊
林鶯峰 江戸末期写	
72. 家忠日記増補追加	25 巻 7 冊
松平忠冬 江戸末期写	
73. 柳営御婦人伝記	1 冊
江戸末期写	
74. 右文故事	9 冊
江戸後期写	
75. 官中秘策	34 巻 5 冊
西山元編 江戸末期写	
76. 指物揃 附・御当家の御軍器	4 冊
江戸末期写	

—絵図—	
77. 市谷御屋敷之図	1 枚
文政 8 年写	
78. 市谷御屋敷図	1 折
江戸末期写	
79. 御城図面 (名古屋城二之丸御殿)	1 枚
同	
80. 尾州名古屋御城下之図	1 軸
江戸中期写	

蓬左アルバム

12. 思い出のアルバム(2) —昭和35年～45年ごろ—



S35. 10. 14

大阪女子大玉上教授(中央右)、同大学生と織茂三郎元蓬左文庫職員(中央左)
(現在の東図書館玄関付近)

昭和30年代末ごろの徳川
町界限
(現在の蓬左文庫正面玄
関周辺)



新築成った東図書館二階に移転直後の閲覧室
(昭和40年代初頭)



同 展示室

出版物一覽

名古屋市蓬左文庫漢籍分類目録(S.50年刊) 3,500円
 名古屋市蓬左文庫国書分類目録(S.51年刊) 4,000円
 名古屋市蓬左文庫古文書古絵図目録(同) 2,500円
 尾崎久弥コレクション目録第一〜三集 各 1,500円
 名古屋叢書(正編)索引・総目録(S.53年刊) 2,000円
 名古屋叢書総編 索引(S.47年刊) 700円
 名古屋叢書続編総目録(S.44年刊) 400円
 善本解題図録第一〜三集(S.55年再版) 各 300円
 蓬左文庫・源氏物語図録(S.53年刊) 300円
 蓬左文庫所蔵古地図複製 No.1〜No.15(S.55〜61年刊)
 各 1,800円

- | | |
|------------|----------------------|
| 1.尾府名古屋図 | 2.尾州名古屋御城下之図 |
| 3.名古屋図 | 4.尾張八郡図 |
| 5〜15.尾張志付図 | |
| 5.尾張図 | 6.愛智郡東 7.愛智郡西 8.春日井郡 |
| 9.智多郡 | 10.熱田 11.丹羽郡 12.海東郡 |
| 13.海西郡 | 14.中島郡 15.栗栗郡 |

御本印型書鎮(S.58年製) 1,000円
 堀田文庫蔵書目録(S.58年刊) 500円
 蓬左文庫絵葉書<8枚組>(同) 300円
 蓬左文庫図録(同) 1,500円
 蟹江慶次郎旧蔵書目録(S.62年刊) 500円

名古屋叢書三編 全19巻20冊(S.56〜63年刊)各3,000円

1. 尾張徳川家系譜
 2. 尾藩世記 上
 3. 同 下
 4. 士林派源流編
 5. 尾張年中行事絵抄 上
 6. 同 中
 7. 同 下
 8. 張州年中行事鈔・尾張俗諺・尾張童遊集
 9. 松濤梓筆(抄) 上
 10. 同 下
 11. 楽寿叢書・十如是独言
 12. 律の滴 諸家雑談・家事雑識
 13. 天保会記鈔本
 14. 金明録
 15. 尾張方言・水かはり・浪越方言集・宮訛言葉の掃溜・雅語訳解・俗語弁
 16. 横井也有全集上(発句・和歌編)
 17. 同 中(俳文・俳論俳話編)
 18. (1) 同 下(1)(連句・漢詩文編)
 18. (2) 同 下(2)(狂歌・談義・伝記資料・追加・参考編)
 19. 物品識名・物品識名拾遺・本草会物品目録・泰西本草名疏
- 名古屋叢書三編総目録・索引(H.2年刊) 3,000円

★以上の出版物は、本文庫事務室において頒布しています。
 郵送希望の方は郵送料が必要ですので、お問い合わせ下さい。(ただし、古地図複製は郵送不可)

利用ご案内

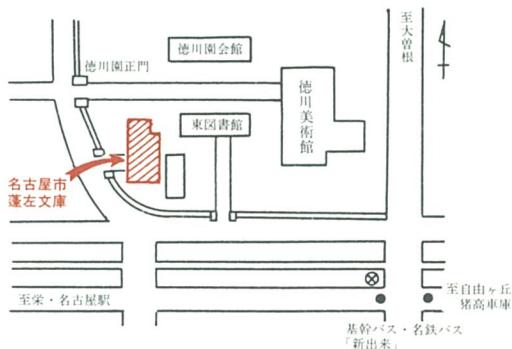
- ▷開館時間 午前9時30分〜午後5時
- ▷休館日 毎月曜日・第3金曜日(館内整理日)
- 祝日(日曜に重なる場合は日曜開館、月・火休館)
 月曜 " 月・火休館
- 特別整理期間
 年末年始(12月28日〜1月4日)
- ▷閲覧 館内に限り、館外貸し出しはいたしません。
- ▷展示 随時蔵書の一部を展示
 (特別展を除き入場無料)
- ▷複写サービス 保存上影響のないものについて複写サービス(マイクロフィルム利用他)を行います。ご来庫の上、ご相談下さい。

名古屋市蓬左文庫

〒461 名古屋市東区徳川町1001番地

☎(052) 935-2173

(名古屋駅から) 市バス(基2)「自由ヶ丘」「猪高車庫」行
 名鉄バス「本地ヶ原方面」行
 (栄から) 市バス(基2)「引山」「自由ヶ丘」「猪高車庫」行
 「新出来」下車、徒歩4分



「蓬左」第44号 ☆平成3年1月12日発行 ☆編集・発行：名古屋市蓬左文庫(東区徳川町1001番地)

☆無料 ☆不定期刊行 ☆印刷：大同印刷株式会社(東区泉2-3-18)